

肺がん薬物療法の最新の進歩を学ぶ

山本教授(大)が医療介護者らに講演

和歌山病院

独立行政法人国立病院機構和歌山病院は18日、新病棟1階多目的室で、開放型病院18周年記念講演会を開

き、県立医科大学附属病院内科学第三講座教授・山本信之氏が「肺がん薬物療法の最新の進歩」をテーマに

講演した。

医師や薬剤師、看護師、ケアマネジャーなど医療・介護従事者ら47人が聴講。山本氏は始めに、人の死因



現在の肺がん治療を解く山本信之教授

の第一位ががん(28・7%)で、部位別では肺がんが56・8%とトップを占めること(2012年厚生労働省人口動態統計より)を示し、喫煙率が全国平均を下回っている現状、2・8%(全国平均6・5%)に留まる検診でのがん発見率など、県内の肺がんにかかるデータを紹介した。新しい気管支鏡技術を導入したC

T検査の方法にも触れた。腺がん、小細胞がんなど肺がんの代表的な組織型とその割合、特徴を説明し、「タイプにより使う薬が違

う」と、がんの組織型や進行度によって異なる抗ガン剤や治療法を解説。「手術での取り残しでなく、多くは遠隔転移で増悪する」と、がんが周辺の正常細胞を押しよけ血管等の中に入り込むことから起こる遠隔転移の仕組みを図解し「治療ガイドラインは最近では1年に2回、改定している。なぜなら薬が進歩しているから」と、日々進歩している肺がん治療の現状を説いた。

喫煙と発がんの関係性、たばこを原因としない遺伝子変異による発がんのメカニズムなどを解きながら、進行した肺がん患者に対して行う現在の抗ガン剤治療について解説した。